

令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 宮城県 大崎市

自治体名：宮城県大崎市

担当課名：生涯学習課

電話番号：0229-23-2213

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	796.8 km <sup>2</sup>
人口	123,083 人
公立中学校数 義務教育学校	11 校
公立中学校生徒数 義務教育学校	2,960 人
部活動数 (運動部)	132 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	R5.10設置済み
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	R6.4策定済み

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市は、旧1市6町からなる東西80kmの地域であり、現在11の中学校・義務教育学校があることから、地域・学校の実態など実情に応じた受け皿の確保が大きな課題として挙げられる。部活動数については現在、運動部14種目（男子部69部、女子部63部）あるが、統計から10年後には現在の2/3程度（3,000人→2,000人）に生徒が減少することが想定され、部活動自体、継続が困難な状況になることが明らかである。

現在でも少子化の影響により24.3%の部活動がいずれ合同での活動を取らざるを得ない状

況にあり、さらに11.4%が休部・廃部措置をとらざるを得ない状況になるとの調査結果が出ている。またスポーツ少年団についても、平成26年に120団体、指導者532人が登録されていたが、令和6年には88団体、指導者228人と活動団体、指導者ともに半数近く減少傾向にある。

そのため、今後、地域クラブ活動の体制を構築していくうえでは、様々な種目を意識したカテゴリー、運営団体や指導者の確保に重点を置き、部活動種目以外の多種多様な活動機会の確保に努めていかなければならない。

### 10年後の大崎市内の中学生数(含県私立)

	中1年(12歳)	中2年(13歳)	中3年(14歳)
2024. 4. 1現在	1,077人	1,046人	1,124人
2034. 4. 1予想	700人	727人	810人

生徒数 約2/3に  
約3,200人→約2,200人

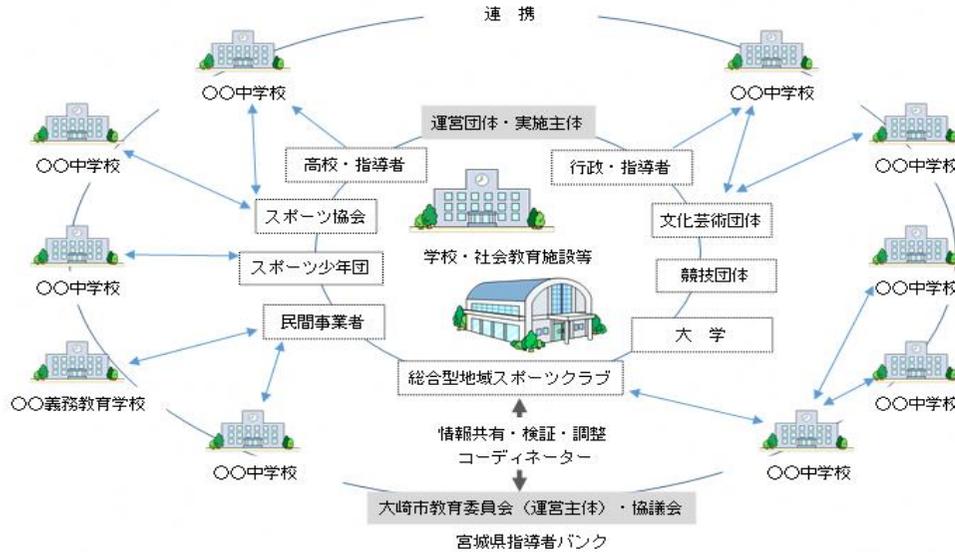
このままだと各校の部活動数が激減し、生徒がやりたいと思う部活動が学校からなくなる可能性大

持続可能な活動へ

## 2.実証内容と成果

### 運営体制・役割

#### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



#### ●行政組織内での役割分担

##### ◎教育委員会

- ・生涯学習課…推進室の設置，コーディネーターの配置，学校・団体等との連携  
社会体育施設等維持管理
- ・学校教育課…学校との連絡調整
- ・教育総務課…学校施設維持管理

##### ◎首長部局

- ・財政課…予算措置
- ・建設課…公園施設維持管理

### 年間の事業スケジュール

令和6年4月	コーディネーターの採用 モデル事業の開始 (随時エントリー受付)
～	第1回協議会の開催 モデル事業実施団体 視察 意見交換 市内小中学校・義務教育学校 訪問・意見交換 市内スポーツ関係団体等 に対する説明・意見交換
令和6年8月	第2回協議会の開催
令和6年10月	リーフレット(Q&A)作成 (小学校5・6年生用)
令和6年12月	リーフレットの配付・周知依頼
令和7年1月	市内基幹公民館等訪問・説明
令和7年3月	第3回協議会の開催

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	11校	実施した地域クラブ総数	18クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		2クラブ（2部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0クラブ
全体の指導者数	48人（モデル事業協力）	全体の運営スタッフ数	3人（教育委員会）

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者	実施期間	主な活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費等
田尻卓球スポーツ少年団	スポーツ少年団	卓球	土、日、祝日いずれかの日	13:00~16:00 又は 9:00~12:00 (月2回程度)	1年：1人 2年：9人 3年：-	4月~2月	田尻中学校体育館	3人	3人	月1,000円
NARUKO NAUGHTYS	地域クラブ	バスケットボール	毎週土曜日（週2回程度）	9:00~12:00 (月2回程度)	1年：6人 2年：1人 3年：-	5月~2月	鳴子中学校体育館 鳴子スポーツセンター 鳴子小学校体育館	4人	4人	年15,000円 ※試合参加時等に臨時で徴収する場合あり
古城剣道クラブ	スポーツ少年団	剣道	毎週土日いずれかの日	8:30~11:30 (月2回程度)	1年：6人 2年：1人 3年：4人	4月~2月	古川第一小学校体育館	2人	2人	なし
古川北中バレーボールクラブスポーツ少年団	スポーツ少年団	バレーボール	毎週土日いずれかの日	9:00~12:00 (月2回程度)	1年：3人 2年：4人 3年：7人	5月~2月	古川北中学校体育館 古川宮沢地区公民館	2人	2人	月1,000円

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者	実施期間	主な活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費等
田尻FCスポーツ少年団	スポーツ少年団	サッカー	毎週土日いずれかの日	8:30~11:30 (月2回程度)	1年：8人 2年：5人 3年：8人	6月~2月	田尻中学校グラウンド 田尻中学校体育館	4人	4人 うち兼職 兼業1人	年 24,000円
錬成館	スポーツ少年団	剣道	毎週土日いずれかの日	8:30~11:30 (月3回程度)	1年：10人 2年：3人 3年：9人	6月~2月	田尻中学校武道館	2人	2人 うち兼職 兼業1人	保険代のみ
田尻中学校 女子バレーボール部 スポーツ少年団	スポーツ少年団	バレーボール	毎週土日いずれかの日	9:00~12:00 (月2回程度)	1年：1人 2年：2人 3年：5人	6月~2月	田尻中学校体育館 大貫体育館など	2人	2人 うち兼職 兼業1人	□スポ少活動 月 3,000円 □休日のみ 月 2,000円 □モデル事業日 なし
鹿島台FC	スポーツ少年団	サッカー	毎週土日いずれかの日	9:00~12:00 (月2回程度)	1年：3人 2年：1人 3年：3人	4月~2月	鹿島台中学校 校庭	6人	6人 うち兼職 兼業1人	各種登録料や保険料については、個人負担とし、その他については、必要に応じて随时会費を徴収する。
古川西小中学校 野球部スポーツ少年団	スポーツ少年団	軟式野球	毎週土日いずれかの日	9:00~12:00 (月2回程度)	1年：4人 2年：2人 3年：7人	6月~2月	古川西小中学校 校庭	1人	1人 うち兼職 兼業1人	なし

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者	実施期間	主な活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費等
松山三本木卓球スポーツ少年団 (三本木地域)	スポーツ少年団	卓球	毎週土・日いずれかの日	9:00~12:00または13:00~16:00 (月2回程度)	1年: 1人 2年: 1人 3年: 3人 3年: 1人	7月~2月	三本木総合体育館, 三本木中学校体育館	5人	5人 うち兼職兼業1人	初月5,000円 (スポーツ安全保険宮城県卓球協会登録料, スポーツ少年団登録料, ゼッケン製作), 以降月2,000円(コーチ謝礼・練習球購入分)を徴収。
古川北剣道協会	体育協会	剣道	毎週土・日いずれかの日	9:00~12:00 (月2回程度)	1年: 4人 2年: 2人 3年:	9月~2月	古川北中学校 武道館	4人	4人	なし
STL (ソフトテニス)	スポーツ少年団	ソフトテニス	土曜日or日曜日	午前・午後いずれかの日 (月2回程度)	1年: 6人 2年: 3年:	7月~2月	調整中	3人	3人	1,000円/月
まじやらいん スポーツクラブ	総合型地域スポーツクラブ	サッカー	毎週土曜日	9:00~12:00 (月4回程度)	1年: 2人 2年: 7人 3年:	6月~2月	松山中学校 グラウンド 松山体育館	5人	5人	なし
大崎西部 ベースボールクラブ	地域クラブ	軟式野球	毎週土・日いずれかの日	9:00~12:00 (月2回程度)	1年: 10人 2年: 3人 3年: 1人	4月~2月	清滝小学校, 大崎中央高校, 諏訪球場, 三本木球場, 古川南中学校ほか	4人	4人	8,000円/月 休日のみ参加 3,000円/程度

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者	実施期間	主な活動場所	指導者数	運営スタッフ数	会費等
松山三本木卓球スポーツ少年団(松山地域)	スポーツ少年団	卓球	毎週土日 いずれかの日	9:00~12:30 または 13:30~17:30 (月2回程度)	1年: 2人 2年: 3人 3年: 4人	9月~2月	松山B&G海洋センター	2人	2人	3,500円/年
三本木中学校男子バスケットボールスポーツ少年団	スポーツ少年団	バスケットボール	毎月2回 (土・日いずれか)	9:00~12:00 (月2回程度)	1年: 5人 2年: 1人 1人 3年:	9月~2月	三本木中学校体育館	2人	2人	5,000円(2回/年)
三本木中学校女子バスケットボールスポーツ少年団	スポーツ少年団	バスケットボール	毎月2回 (土・日いずれか)	9:00~12:00 (月2回程度)	1年: 2年: 4人 3年:	9月~2月	三本木中学校体育館	2人	2人	5,000円(2回/年)
東北STC	スポーツ少年団	ソフトテニス	毎週土日 いずれかの日	9:00~12:30 または 18:00~21:00 (月1・2回程度)	1年: 2人 2年: 1人 3年:	1月~2月	鹿島台中学校体育館 ほかに市内小中学校体育館	4人	4人	300円/回

#### ③その他、体験会やイベント等の開催実績

未開催

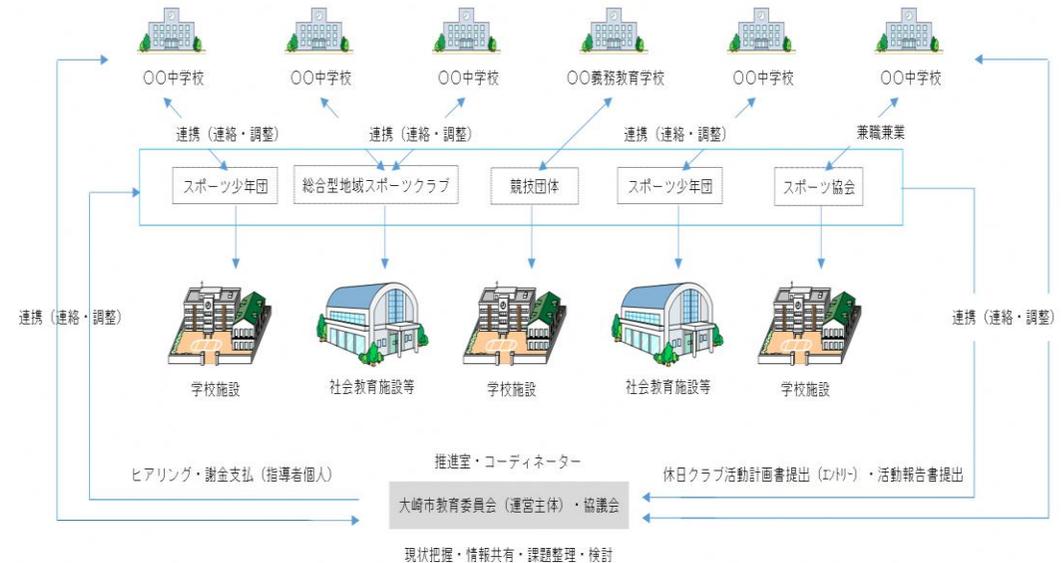
# 2.実証内容と成果

## 主な取組例

### ●大崎市モデル事業 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	サッカー、軟式野球、卓球、ソフトテニス、バレーボール、バスケットボール、剣道 計18団体
運営団体名	大崎市教育委員会
期間と日数	4月～2月の間で土日・祝日いずれかの日に月2回程度
指導者の主な属性	JSPO公認資格、各競技団体資格保有者
活動場所	学校体育施設、社会体育施設等
主な移動手段	徒歩、自転車、送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	月0円～3,000円程度
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

### ●運営体制図(地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

前段で示した各クラブ活動については、部活動をスポ少登録している団体等を中心に声をかけた。あくまでも当事業を当該団体に委託(運営・実施)するのではなく、従来の各団体独自の運用(会費等)の中で、顧問不在による休日の活動機会を設けていただくことを要件に参加を呼びかけたことから、運営や会場・指導者の調整等については、エントリー団体にお任せし、活動分の謝金を市教育委員会から団体所属の指導者個人にお支払いする形で実施した。

# 2.実証内容と成果

**ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備**

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



## 取組内容

### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

#### 取組事項

- コーディネーターを1名配置し、関係団体・機関、小・中学校との連絡調整、当改革の理解促進を行う。
- 新規地域クラブ団体の立ち上げや活動方法について助言・指導を行う。
- モデル事業実施団体との連絡調整、活動状況の把握を行う。

#### 取組の成果

- 教育委員会（推進室）にコーディネーターを配置したことにより、関係団体との連絡調整や、市内小中学校の現状把握など、円滑に行うことができた。
- すでに学校と連携し、部活動の活動時間確保のためにスポーツ少年団として活動していた団体（部活動）については、スムーズに地域移行できた。
- モデル事業の実践例を広く周知することにより、活動団体の拡大を図ることができた。

#### 休日の地域クラブ活動パターン

##### パターン1 指導者派遣型【地域クラブ活動単体】

○A中学単独 指導者派遣(含兼職兼業)  
市町村、スポーツ・文化関係団体が連携し派遣

##### パターン2 指導者派遣型【地域クラブ活動合同】

○ABC中学合同 指導者派遣(含兼職兼業)  
市町村、スポーツ・文化関係団体が連携し派遣

##### パターン3 ○○部親の会・スポ少等の団体として活動【単独・合同】

○現部活動をそのまま親の会やスポ少団体として登録し休日に活動

##### パターン4 運動・文科系地域クラブ・団体活動への参加【受け入れ型】

○パターン4-1 現在、部活動で行っている種目と同じ活動を行っている団体等へ所属し活動  
○パターン4-2 現在、部活動で行っている種目と違う活動を行っている団体等へ所属し活動

##### パターン5 ニュースポーツ・文化芸術体験会等への参加【受け入れ型】

○部活動種目以外のニュースポーツや障がい者スポーツ、文化芸術等の体験会への参加

##### パターン6 クラブ活動などに参加せず、塾や趣味、地域貢献などの時間に活用

#### コーディネーターの具体的な動きの実績

- モデル事業を実施している団体と連絡を取りながら、現地の視察や参加している生徒や保護者の意見、課題等について整理した。
- モデル事業実施団体以外のスポーツ関係団体等との意見交換、当改革の共通理解を図るための説明会を個別に行った。

#### 今後の課題と対応方針

- スポーツ少年団への未登録や親の会等の運営組織がない部活動に対する今後のアプローチ
- 部活動任意加入に伴う部活動種目に限らない多種多様な活動機会（社会教育活動）の確保
- 種目・エリア単位での受け皿の確保

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

##### 取組事項

10年前と比べ、スポーツ少年団指導者の数も半数近くに減少し、指導者の確保がより大きな課題として挙げられていたことから、当事業を実施するにあたり、教員の兼職兼業について、校長会のご理解をいただきながら、周知を図った。

##### 人材バンクの人数

なし

##### 人材バンクの年齢構成

なし

##### 登録者属性

なし

##### 種目

なし

##### 資格有無

なし

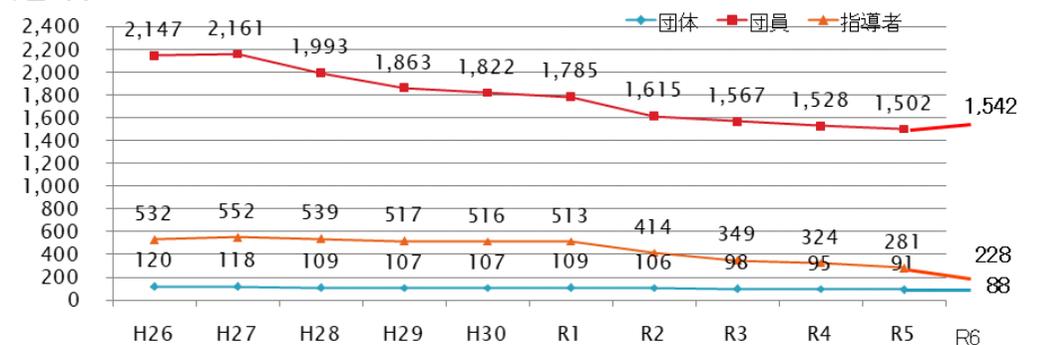
##### 取組の成果

- 校長会議において兼職兼業について説明
- 市内中学校、義務教育学校 各校への当改革の説明
- 当モデル事業に6人の教員が兼職兼業として休日の地域クラブ活動に携わることができた。
- 令和6年度は18の団体に所属する48名の指導者の方に指導いただいた。

### 指導者数の推移

【令和6年度：スポ少全体】

単位：人



## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

##### 指導者研修の内容

市独自の研修 未実施（県主催の研修会への参加）

##### 受講者の声

市独自の研修 未実施（県主催の研修会への参加）

##### 指導者研修の参加実績

市独自の研修 未実施（県主催の研修会への参加）

##### 今後の課題と対応方針

- 県主催の研修会への参加については継続して呼びかけていくとともに、本市・地域の実情にあった要件等を調整しながら、活動しやすい環境を整えていく必要がある。
- 県指導者バンクに本市を指導エリアとして登録されている方はいるが、まずは、活動できる受け皿の確保が最優先である。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

- 学校と共通認識のもと推進していくにあたり、校長会はもちろんのこと、市内11の中学校・義務教育学校に直接赴き、本市の方針等について説明・意見交換を行った。
- 市内スポーツ少年団本部役員会や各支部役員会での説明会を実施。市内高校との連携も視野に入れながら、本市の方針等について説明を行った。

##### 取組の成果

- 中学校校長会や市内11の中学校・義務教育学校に直接赴き、国・本市の方針について共通理解を求めながら、生徒・保護者向けのリーフレット等の配付や学年集会、PTA総会時における説明機会を得た。
- 部活動と地域クラブ活動が併走する中での推進のため、モデル事業実施団体に対する学校施設開放の優先的配慮について協力を依頼した。
- 市内高校から当改革（指導者・場所の確保）に対する連携について打診をいただいた。

#### バス等の運行実績

該当なし

#### バス等の運航経費・収入

該当なし

#### 今後の課題と対応方針

行政（市）だけでは、当改革は進まないことから、学校・保護者・生徒・地域のより一層の共通理解（認識）が必要であると感じる。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
**エ：面的・広域的な取組**

オ：内容の充実  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

##### 取組事項

■本市を含む1市4町の圏域においても、今後、広域的に子どもたちの活動機会を確保していく必要があることから、圏域の担当者との意見交換を実施した。

##### 各自治体の役割

該当なし

##### 移動手段

該当なし

##### 事務局運営の方法

該当なし

##### 取組の成果

■各市町でも共通の課題を抱えていることが分かり、今後連携を密にしながら活動機会の確保と周知に努めていることで共通理解ができた。

該当なし

##### 今後の課題と対応方針

中総体も圏域単位での地区予選となり、子どもたちの活動の場も広域的になることを想定し、近隣自治体との更なる連携・協力が必要と考える。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実①

##### 取組事項

■部活動をスポーツ少年団登録している団体等を中心に声をかけ、あくまでも当事業を当該団体に委託（運営・実施）するのではなく、従来の各団体独自の運用（会費等）の中で、顧問不在による休日の活動機会を設けていただくことを要件に参加を呼びかけたことから、運営や会場・指導者の調整等については、エントリー団体にお任せし、活動分の謝金を市教育委員会から団体所属の指導者個人に支払う形で実施した。

活動の詳細			
参加人数	平均11人（4人～25人）	指導者数	48人（18団体）
属性	スポーツ少年団，総合型地域スポーツクラブ，クラブチーム		
具体的な内容	<p>休日の部活動の実施にあたり教員（顧問）が不在でも、地域クラブ活動のガイドラインを遵守した外部指導者（団体）による活動が可能である団体とした。</p> <p>モデル事業に取り組む団体については、「モデル事業計画書」（別紙）を作成し、市教育委員会に提出する。教育委員会は計画書に基づき各学校のモデル事業の対象とする団体を決定。市教育委員会は、モデル事業として依頼する団体の指導者に対し、指導料（謝金）として1回の活動（指導）につき、指導者一人当たり時給1,000円（最大3時間）の予算措置を行った。</p>		
子供の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ほかの生徒といっしょに活動ができることが良い</li> <li>●会場によって送迎が大変なときもある（保護者）</li> <li>●子どもがやりたいと思うことに送迎は苦にならない（保護者）</li> <li>●レベルに応じて指導してくれる。</li> </ul>		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>●クラブの活動は、受益者負担が基本だと考える。現在は保険にも入って活動している。</li> <li>●土日の活動が完全に地域移行されると、自分としては非常にありがたく感じる。（顧問）</li> <li>●毎回、保護者が交代で子どもたちの世話と見守りをしている。</li> <li>●指導者不足が十分な練習のネックとなっている。時間・人・金が十分でない。</li> </ul>		
運営経費	各団体の従来の活動費の中で調整。謝金については、今後の受益者負担を見据え、月2回分まで市が支払うこととした。		

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
カ：参加費用負担の支援等  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組

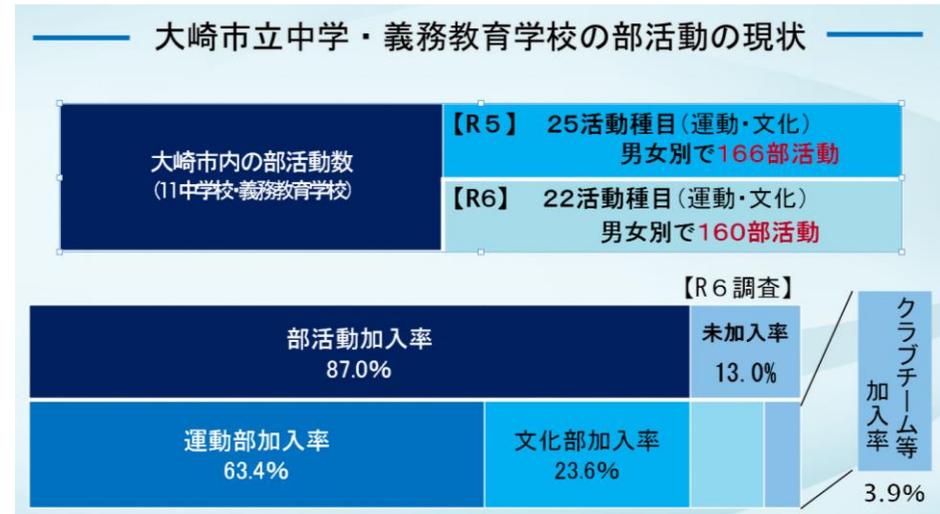


### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実②

##### 取組の成果

- モデル事業初年度ということもあり、手探りの中スタートしたが、スポ少登録している部活動については、当改革を理解をいただきながら実施できた。
- 校長会において教員の兼職兼業について理解いただき、6名の教員が地域の一指導者として休日のクラブ活動に携わることができた。
- 廃部となった部活動の新たな受け皿としてクラブチームが立ち上がった。
- 小学生といっしょに活動する団体も見受けられるようになった。
- 次年度に向けた新たな受け皿の立ち上げの相談が寄せられるようになった。



##### 今後の課題と対応方針

- スポーツ少年団登録していない親の会がない部活動に対するアプローチ。
- 今年度からの部活動の任意加入に伴う、平日・休日の新たな活動機会の確保。(R6：運動部加入率63.4%)
- 部活動(種目)を受け継ぐ受け皿の確保と並行しながら、子どもたちの主体性による選択肢、多種多様(体験・教室等)な活動機会確

保に努め、活動(受皿)リストという形で生徒・保護者に提示することとする。

- スポーツ関係団体に限らず、各公民館等と連携を図りながら社会教育活動の場の提供に努めていくこととする。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

##### 取組事項

- 各団体の会費の中で休日の活動を実施していただいていることから参加費負担の支援は実施していない。
- 団体に所属する指導者に対し謝金を支払う形で実施

##### 地域クラブに係る経費

##### ■イニシャルコストの分析

- 各団体の会費の中で休日の活動を実施していただいていることから参加費負担の支援は実施していない。

##### ■ランニングコストの分析

- 各団体の会費の中で休日の活動を実施していただいていることから参加費負担の支援は実施していない。

##### 持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

- 各団体の会費の中で休日の活動を実施していただいていることから参加費負担の支援は実施していない。

##### 収支バランス

- 各団体の会費の中で休日の活動を実施していただいていることから参加費負担の支援は実施していない。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

##### 取組の成果

該当なし

##### 今後の課題と対応方針

■これまで、ほとんどの指導者の方がボランティアで子どもたちを指導してきたなかで、謝金を団体・指導者の活動資金の一部に充てていただく形で実施してきたが、謝金を辞退する指導者もいた。これから指導者を確保していく中で、当改革で民間を除き指導を生業として実施することはたいへん厳しい状況にある。競技志向のクラブチームとは別に低廉で気軽に楽しめる活動の場を確保・提供していくことが今後必要になってくる。

### 取組内容

#### ●取組項目名 キ：学校施設の活用等

##### 取組事項

- 校長会を通じて、当モデル事業実施団体に対する学校施設利用の配慮について協力をお願いした。

##### 取組の成果

- 一定程度、学校施設の利用に配慮いただいた部分もあったが、部活動と併走している中で、調整に苦慮する学校もあった。
- 学校施設利用が難しい場合は、近隣の社会体育施設や公民館施設の利用について配慮していただくよう調整した団体もあった。

##### 今後の課題と対応方針

- 学校施設開放については、現在、約200の団体が登録し、市内30の小中学校を利用している。
- 閉校した施設については、今後の利活用や維持管理を考慮し、利用を制限している中、既存の学校施設に予約がより集中することもあり、学校現場においても調整に苦慮しているところもあることから、高校や民間施設の利用についても検討が必要になってくる。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

令和6年4月に推進計画を策定し、「子どもたちの主体的な参加を促すことができる新たな活動・体験機会を創る」を基本目標に掲げ、令和8年度の完全移行を目指し推進しているが、「地域移行」という言葉が先行し、間違った受け止め方をしている方が多く見受けられた。当初、部活動を受け継ぐ形での受け皿をどう確保していくかに捉われ、中総体やハイシーズンにおける活動・指導方法など、大きな課題が壁となり、検討が前に進まない時期もあった。

本市では令和6年度から部活動を任意加入制とした。それは、当改革で示すとおり、休日は社会教育活動となることと考えたからである。当初の基本目標に掲げるとおり、少子化に伴い部活動自体、継続が困難な状況になることは明らかである。今後は部活動を受け継ぐ受け皿を確保していく一方で、これからの子どもたちに多種多様な活動機会を提供していくことも重要と考え、市内や圏域で行われている様々な社会教育活動を確保・集約し、様々な選択肢を発信していくことが行政の役割でもあると捉え、各関係団体・機関と更に連携し取り組んでいくこととする。

#### ●成果の評価

今年度よりコーディネーターを1名配置し、学校や関係団体等との戸別訪問を通じながら、当改革の共通理解をある程度深めることができたが、100年続いた部活動を改革していくには、十分な時間と労力が必要と感じた。継続して丁寧な説明を行いながら、学校・保護者、地域自体の意識を変えていかなければならないと感じた。

一方で手探りながらもモデル事業を実施することで、移行後のイメージを示すことができたのではないかと考える。その中で、新たに子どもたちの活動場所確保のために団体の立ち上げや、受入れ対象を拡大するような動きも見受けらるようになった。

こうした動きがより持続可能は活動機会の確保に繋がると思うことから、課題・成果も含め情報の共有に努めながら推進していきたいと考える。

#### ●今後に向けて

令和8年度の移行のタイミングを見極めながら、文化部、特に吹奏楽の地域クラブ活動の条件整備も当事業と並行しながら進めていかなければならない。

「子どもたちの主体的な参加を促すことができる新たな活動・体験機会を創る」ことを念頭に、「子どもたちのため」に様々な選択肢を与えることができるよう、部活動種目以外の関係団体との連携強化にも努めるとともに、地域・圏域全体で共通理解を図りながら環境整備に取り組んでいくこととする。

### アンケート結果・参加者の声

#### ●参加者の声

##### 中学生（など）

- ・ほかの生徒といっしょに活動ができることが良い
- ・会場によって送迎が大変なときもある（保護者）
- ・子どもがやりたいと思うことに送迎は苦にならない（保護者）

##### 中学生（など）

- ・レベルに応じて指導してくれる。
- ・毎回、保護者が交代で子どもたちの世話と見守りをしている。指導者不足が十分な練習のネックとなっている。時間・人・金が十分でない。

##### 指導者（など）

- ・将来的には他町・他学区からも受け入れ、地域のクラブにしたい。
- ・土日の活動は基本的に学校はノータッチである。
- ・部活動の受け皿としてそのまま活動している。

##### 指導者（など）

- ・地域や種目によって温度差が出ないように地域移行を推進していく必要がある。
- ・学校側からも積極的に地域クラブと関わりの場を設定することが必要

## 2.実証内容と成果③

### アンケート結果・広報資料

■今年度にける本市の取組状況について、現状や課題、モデル事業の紹介、今後の方向性についてまとめたもの。各説明会や県研修会の事例発表に活用した。

■移行時に該当する小学校5・6年生の児童・保護者向けに部活動の仕組みや今後の方向性についてQ&A形式で冊子を作成し、市内小学校へ周知を依頼した。



【R6大崎市の取組状況について】

出典:大崎市の部活動地域移行の取組について



【児童・保護者向け啓発リーフレット】

出典:自分のやりたいことを みつけておこう (部活動Q&A)

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【練習メニューの事前指導（サッカー部スポ少）】



【少人数ながらレベルに応じたバレー指導（バレー部スポ少）】



【兼職兼業による指導（剣道部 スポ少）】



【初心者から上級者までクラス分けによる練習（卓球部スポ少）】

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



#### ●ステークホルダー

学校（校長・校内担当者）、PTA代表、体育協会・スポーツ少年団代表、市教育委員会、仙台大学、民間代表

#### ●経過

令和5年度に市教育委員会生涯学習課内に推進室を設置し、兼務辞令含む5名でスタート。同年、市内関係団体・機関代表者からなる協議会を設置し、本市の地域移行の方針・移行年度を定めた推進計画を策定した。同時に次年度にモデル事業を実施するにあたり市内学校部活動顧問、外部指導者と意見交換を実施。

令和6年度にはコーディネーター1名を配置し、モデル事業実施団体との連調整や状況把握に努めながら、小学校を含めた市内30の学校と個別に意見交換や説明会を重ね当改革の共通理解を図った。

#### ●実施内容

市内11の中学校・義務教育学校の部活動のうち、ガイドラインに準じた休日のクラブ活動が可能な団体にエントリーしていただき、土日いずれか月2回程度実施していただきながら課題等の整理に取り組んだ。

#### ●実施にあたって生じた課題

まずは、部活動をスポ少登録している団体に説明し、ご理解いただいたうえでモデル事業を実施したが、親の会などがない部活動については、新たなる実施することが難しかった。

部活動と併走する形での事業ということもあり、学校施設の利用について一部調整が難しい団体もあった。

#### ●実施内容、工夫した点等

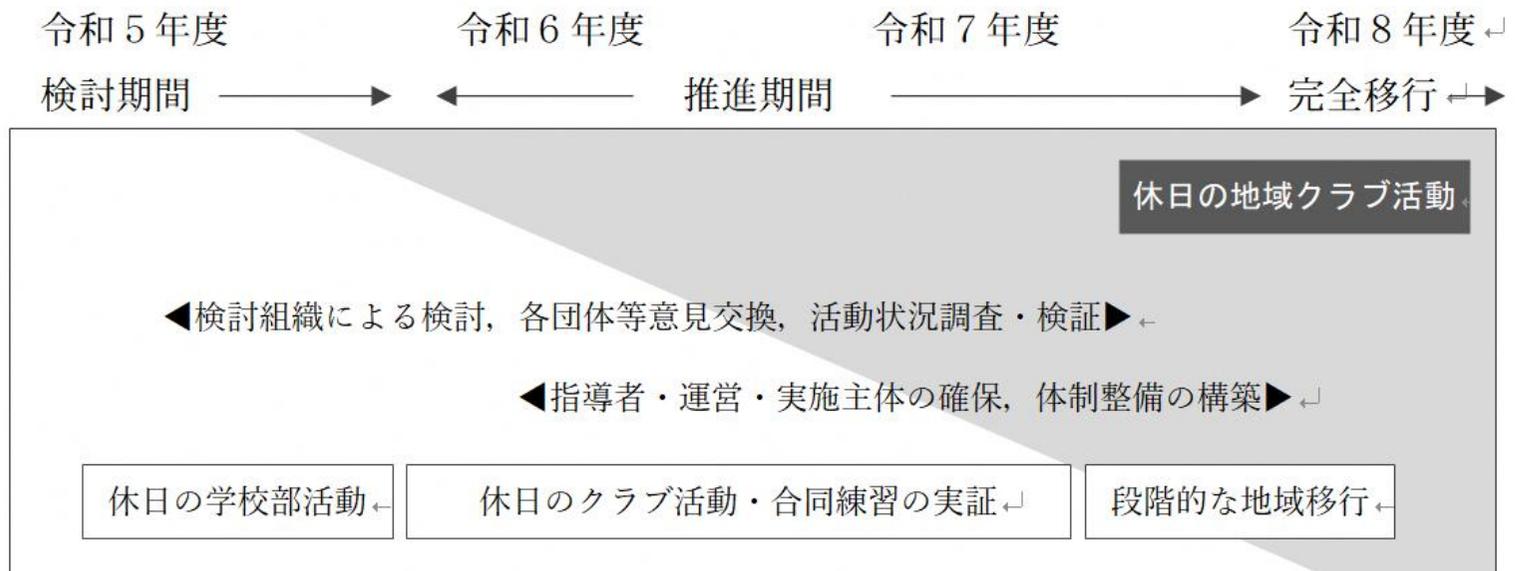
各学校で行われているモデル事業の事例と合わせ、現状そして将来少子化によって訪れる部活動（機会）の減少など、課題の共通理解の徹底に努めた。

改めて校長会を通じ学校施設利用の優先的配慮をお願いするとともに、社体・公民館施設等の利用についても周知した。

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

### 移行イメージ



令和6年度

# 地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

## 宮城県 亶理町

自治体名：宮城県亶理町

担当課名：亶理町教育委員会生涯学習課

電話番号：0223-34-0511

# 1.自治体の基本情報

## 基本情報

面積	73.60 km <sup>2</sup>
人口	32,780 人
公立中学校数	4 校
公立中学校生徒数	853 人
部活動数	33 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	基本方針策定済

## 地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

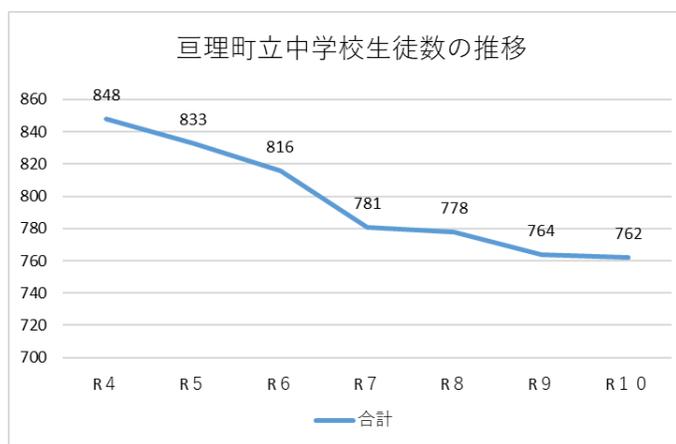
現在、当町の運動部活動は、陸上、水泳、野球、サッカー、ソフトテニス、バレーボール、バドミントン、卓球、柔道、剣道の33の部が活動している。

少子化に伴い、近年、女子ソフトボール部が廃部し、男子軟式野球部も他の中学校と合同チームによる活動となり、団体種目に影響がでている。

深刻な少子化に伴い、中学校部活動の体制維持が困難となってきていることや、教師にとって中学校部活動は、大きな業務負担となっていること、中学校部活動を生涯教育の一環として捉

え、持続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会の体制確保が必要となっている背景を踏まえ、国・県のガイドラインにおきましては、「令和7年度末までを休日の中学校部活動の地域移行の推進期間とする。」と示されたことから、協議会等で生徒が将来にわたり、スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、環境の一体的な整備を推進する必要がある。

そこで、長年にわたり実施されてきた休日の中学校部活動に対する関係者の大きな意識の転換が課題である。



### 【課題】

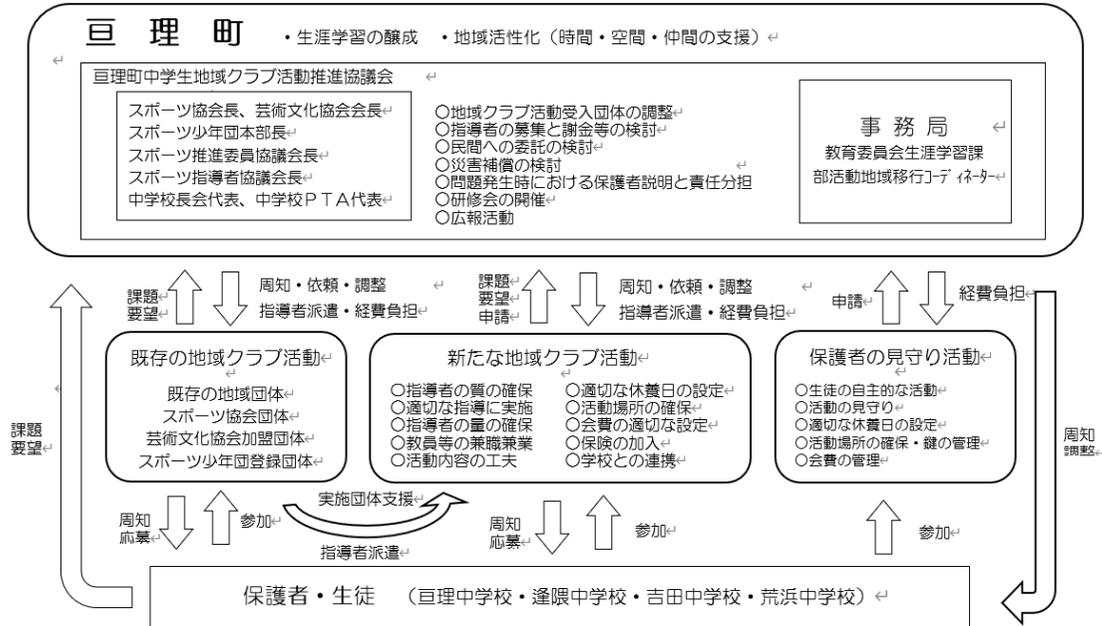
- ・今後も生徒数の減少傾向が想定される。
- ・長年の部活動に対する関係者の大きな意識の転換

出典:巨理町立小・中学校再編に係る基本構想(R5.5月)

# 2.実証内容と成果

## 運営体制・役割

### ●運営体制図（市区町村における推進体制図）



### ●行政組織内での役割分担

#### ◎教育委員会

- ・生涯学習課…部活動地域移行の主幹、中学生の地域スポーツ活動の環境整備
- ・教育総務課…学校との調整・連携、学校に関する事項

#### ◎首長部局

- ・企画課…庁内企画調整
- ・財政課…予算措置

## 年間の事業スケジュール

令和6年5月	地域移行保護者説明会
令和6年6月	協議会（第1回） 生徒・保護者等アンケート調査
令和6年7月	協議会（第2回）
令和6年10月	指導者研修会 町実証事業の開始
令和6年11月	協議会（第3回）
令和7年1月	生徒・保護者等アンケート調査
令和7年3月	推進協議会（第4回）

## 2.実証内容と成果

### 地域スポーツクラブ活動の運営実績

#### ①全体に関すること

中学校数	4校	実施した地域クラブ総数	7クラブ
全体の指導者数	11人		

#### ②各クラブに関すること

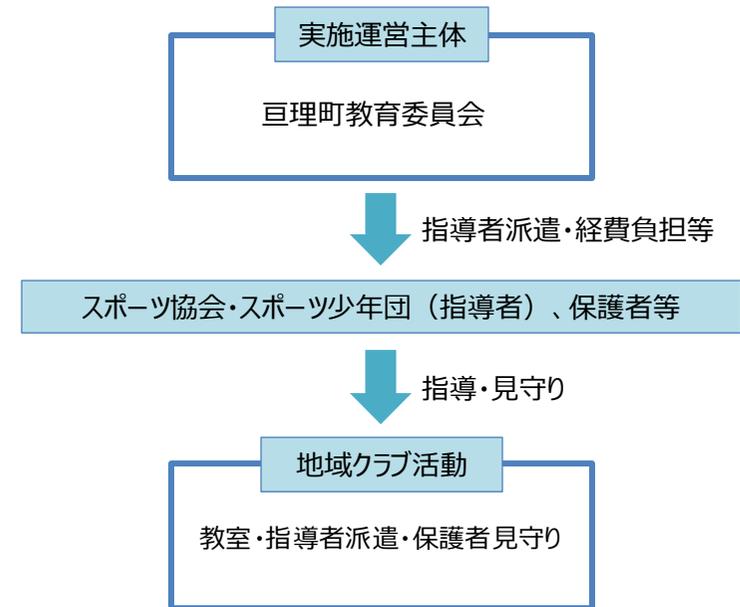
	実施主体 「事業名」	会場	開始日 実施回数	日程等	募集範囲	参加(募集) 人数
ソフトテニス	亶理町教育委員会 「ソフトテニス教室」	亶理中学校 テニスコート	10/12 全6回	月1回 第3土曜日 9:00~12:00	町内中学校在籍生徒 及び町内在住の中学生	12(20)
卓球男	亶理町教育委員会 「卓球教室」	亶理中学校 体育館	10/19 全6回	月1回 第1土曜日 9:00~12:00	町内中学校在籍生徒 及び町内在住の中学生	18(20)
卓球女						
バドミントン男	亶理町教育委員会 「バドミントン教室」	荒浜中学校 体育館	12/14 全6回	月1~2回 土曜日 9:00~12:00	町内中学校在籍生徒 及び町内在住の中学生	14(20)
バドミントン女						
バレーボール男	亶理町教育委員会 「バレーボール教室(男子)」	亶理中学校 体育館	12/21 全4回	月1回 土曜日 13:30~15:30	町内中学校在籍男子生徒 及び町内在住の男子中学生	9(20)
バスケットボール女	亶理町教育委員会 「バスケットボール教室」 (亶理中学校女子バスケットボール部)	亶理中学校 体育館	12/14 全13回	毎週土曜日 ①8:30 ②11:00 ③13:30	亶理中女子バスケットボール部員	5(12)
野球	逢隈中学校野球部親の会 「逢隈中学校野球クラブ」	逢隈中学校 グラウンド	全6回	12月3回、 1~3月各月1回 土日どちらか1日	逢隈中学校生徒	12
バレーボール女	吉田中学校女子バレーボール部親の会 「吉田中学校女子バレーボールクラブ」	吉田中学校 体育館	11/9 全10回	月2回 土曜日 18:00~20:00	吉田中女子バレーボール部員 山元中女子バレーボール部員	12

## 主な取組例

### ●地域クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	ソフトテニス、卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、野球
運営団体名	巨理町教育委員会
期間と日数	地域スポーツクラブ活動の運営実績各クラブに関すること参照（P4）
指導者の主な属性	スポーツ協会・スポーツ少年団指導者・保護者等
活動場所	町内中学校
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎等
1人あたりの参加会費等（年額）	会費なし（公費負担）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険（公費負担） 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

### ●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



### ●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 統括責任（教育委員会）  
役割：活動における管理者として、学校、保護者との連携を行う
- 主任指導者 11名  
役割：活動における主任者として、生徒への指導を行う

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

##### 取組事項

○指導者と生徒のニーズをマッチングするための部活動地域移行に関わるコーディネーターを配置し、協議会等により地域移行に向けた環境の一体的な整備に向け協議を行う。

○**令和7年10月以降は、休日の中学校部活動を実施しない**こととし、早い段階で地域移行が可能な種目（地域）等において、課題把握や問題整理のために、教育委員会が主体となり、モデル的に指導者派遣等の実証事業を実施する。

##### 取組の成果

○部活動地域移行コーディネーターを教育委員会に配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。

○中学校及び保護者等との効果的な連携を図り、地域クラブの運営と中学校の連絡調整等を行うことができた。

○町の実証事業として、地域クラブへの参加希望の生徒と指導者とのマッチングにより、7クラブの活動をスタートすることができた。

##### コーディネーターの具体的な動きの実績

【部活動地域移行コーディネーター】

- ・協議会の調整等を実施し、関係団体との連携に努めた。
- ・町実証事業による地域クラブ活動を開始し、学校、参加者、指導者への連絡調整を実施した。

##### 今後の課題と対応方針

- 中学校体育連盟の大会の今後の在り方や見直しによって大きく影響される。
- 生徒及び保護者の意向を把握し、指導者確保を図りながら、地域移行が可能な種目の活動実施に向けた体制づくりを行う。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

##### 取組事項

- ・スポーツ協会の競技団体・スポーツ少年団及び公募による指導者と面談により指導計画を調整する。
- ・指導者に対して、資質向上のための研修を、年1回開催する。

##### 指導者確保の人数

17名

##### 人材バンクの年齢構成

20代	1名
30代	3名
40代	5名
50代	2名
60代以上	6名

##### 登録者属性

##### 職業

- ・会社員 12名
- ・学生 1名
- ・その他 4名

##### 種目

- ・野球 6名
- ・卓球 2名
- ・剣道 2名
- ・バレーボール 2名
- ・ソフトテニス 1名
- ・バスケットボール 1名
- ・バドミントン 3名

##### 資格有無

- ・JSPO公認指導員
- ・中学校教諭

##### 取組の成果

- ・指導者17名を確保した。
- ・地域の人材で信頼のあるスポーツ協会、スポーツ少年団等から指導者の確保ができた。
- ・年1回、指導者研修会を実施し、15人の参加があった。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

**イ：指導者の質の保障・量の確保**

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

##### 指導者研修の内容

###### 【地域クラブ活動指導者研修】

- ・対象：地域クラブ活動指導者として活動を希望する方
- ・目的：地域のスポーツ・文化芸術活動を担っていただく指導者の方々に、本研修をとおり中学生を適切に指導することのできる指導力の向上を目的とする。

工夫した点：宮城県が主催する指導者研修会の内容を参照しながら、地元体育大学の教授から指導いただく。

##### 指導者研修の参加実績

- ・開催日：10月13日
- ・開催回数：1回
- ・参加人数：15人

演題：部活動地域移行に伴う地域クラブ活動の指導

講師：仙台大学こども運動教育学科長 教授 郡山 孝幸 氏

##### 受講者の声

###### 参加した地域クラブ指導者の声

「現在、中学校部活動の外部コーチを頼まれているが、これからの地域クラブの指導を行うにはどうしたらよいか。」

⇒中学校の顧問、学校施設、参加生徒の調整を図り、地域クラブ活動へと展開できた。

##### 今後の課題と対応方針

- 既にスポーツ少年団等の指導者資格があれば改めて研修を受講しなくとも良いのではないか等、資格全体の制度設計が必要と思われる。
- 研修会受講後の有効期間の適正な設定。
- 国の推進期間終了後の研修会の在り方。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

**ウ：関係団体・分野との連携強化**

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

##### 取組事項

○前記のア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備に同じ。

○学校と連携して進めていくため、学校教職員や新入学保護者説明会、学年懇談会等において、本町の取組及び方針等の説明を実施。

##### 取組の成果

○学校や保護者の集まる機会等に訪問し、説明を行うとともに、町内中学校の全ての生徒に地域移行に関する資料配布やチラシによる周知を行った。

○各地域クラブが活動するにあたり、各協会や団体からの指導者と活動計画を作成し、活動する開始日には保護者説明会を行い、指導者の指導方針や参加者の出欠確認など、円滑に活動が行えるよう環境づくりに努めた。

##### 今後の課題と対応方針

○指導者確保を図りながら、地域移行が可能な種目の活動実施に向け、指導者の確保や体制整備のため、スポーツ協会やスポーツ少年団等と今後とも連携強化を図っていく。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実①

##### 取組事項

○地域移行が可能な種目（地域）等において、課題把握や問題整理のために、教育委員会が主体となり、モデル的に指導者派遣等の実証事業を実施する。

活動の詳細			
参加人数	82人	指導者数	11人
属性	教室活動、指導者派遣活動、保護者見守り活動		
具体的な内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町主催の各種教室の開催</li> <li>・地域クラブ活動に対する指導者の派遣（町が地域クラブと認める活動に対し指導者を派遣）</li> <li>・保護者の見守り活動（中学生の自主的な練習を主体とした保護者の見守り活動）</li> </ul>		
生徒の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 指導者の指導がわかりやすく楽しく活動できた。</li> <li>● 他校生や指導者など多くの人と交流することができた。</li> <li>● 知識を深めたり、技能を高めたりすることができた。</li> </ul>		
関係者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>● しばらくは部活動と地域クラブが共存していく。相互に連携を図りながら体制整備をしていくことが大切である。</li> <li>● 参加者への個別対応が十分にできなかった。指導者と補助スタッフを配置する等、指導体制の充実が必要である。</li> </ul>		
運営経費	人件費 3,641千円 諸謝金 70千円 雑役務費 30千円 保険料 34千円 合計 3,775千円		

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
 イ：指導者の質の保障・量の確保  
 ウ：関係団体・分野との連携強化  
 エ：面的・広域的な取組

**オ：内容の充実**  
 カ：参加費用負担の支援等  
 キ：学校施設の活用等  
 ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 オ：内容の充実②

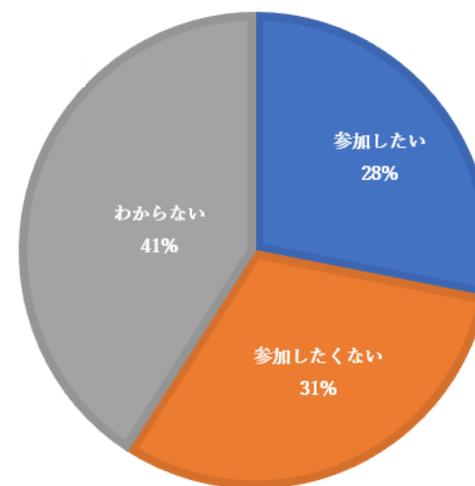
##### 取組の成果

○令和6年6月に中学校部活動の地域移行に向け、児童・生徒・保護者のニーズを把握し、地域クラブの今後の計画推進のためアンケート調査を行った。対象は、小学6年生及びその保護者（回答率：児童60%、保護者55%）、中学校1, 2年生及びその保護者（回答率：生徒69%、保護者37%）

中学生を対象としたアンケート結果によると、「休日（土日祝日）に亶理町で実施する地域クラブ活動に参加したいと思いますか。」の問いに対しては、①参加したい（28%）②参加しない（31%）わからない（41%）であった。

さらに、「参加しない理由は何ですか。」の問いに対して、①部活動だけに参加する（57%）②外部の団体に所属している（14%）③他にやりたいことがある（26%）その他（3%）であった。

休日（土日祝日）に、亶理町で実施する地域クラブ活動に参加したいと思いますか。←



出典:亶理町中学生地域クラブ活動推進協議会

##### 今後の課題と対応方針

○生徒の休日の活動における過ごし方が多様であることや休日の活動参加への考えが不確定であり、地域移行の制度の周知等も課題であると考えられ、地域クラブの体制づくりが必要である。

## 2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備  
イ：指導者の質の保障・量の確保  
ウ：関係団体・分野との連携強化  
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実  
**カ：参加費用負担の支援等**  
キ：学校施設の活用等  
ク：その他の取組



### 取組内容

#### ●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

##### 取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、地域移行が可能な種目（地域）等において、課題把握や問題整理のために、教育委員会が主体となり、モデル的に指導者派遣等の実証事業を実施する。

##### 地域クラブに係る経費

##### ■イニシャルコストの分析

・ホームページ構築費用（町HP利用）

##### ■ランニングコストの分析

・人件費 3,641千円  
・諸謝金 70千円  
・雑役務 30千円  
・保険料 34千円

##### 持続的な運営に必要な受益者負担額の試算・収支バランス

学校部活動と実証事業の差額経費（指導者派遣料、保険料等）は、原則、教育委員会が負担することとしており、実証事業において課題整理等により、持続的な運営に必要な経費試算や体制づくりを行う。

##### 取組の成果

○モデル的な実証事業（教室・指導者派遣・保護者見守り）により、現実味を帯びた課題等（会場費・用具・消耗品等）も確認できたため、今後、課題解決しながら、体制づくりに活かす。

##### 今後の課題と対応方針

○実証事業の課題把握や問題整理等を踏まえて、協議会で検討・協議しつつ、参加者負担の在り方を整理していく。

### 総括・成果の評価・今後に向けて

#### ●総括

部活動地域移行コーディネーターを配置することにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。

令和7年10月以降は、休日の中学校部活動を実施しない教育委員会の基本方針を示すとともに、学校や保護者の集まる機会等に訪問し、説明を行い、町内中学校の全ての生徒に地域移行に関する資料配布やチラシにより、長年にわたり実施されてきた休日の中学校部活動に対する大きな意識の転換について周知する努力を重ねた。

モデル的な実証事業（教室・指導者派遣・保護者見守り）により、課題等も確認できたため、今後、課題解決しながら、体制づくりに活かしていきたい。

#### ●成果の評価

町の実証事業として、地域クラブへの参加希望の生徒と指導者とのマッチングにより、7クラブの活動をスタートすることができた事は大きな一歩となった。

また、地域の人材から指導者17名を確保することができ、町主催の指導者研修会にて地域スポーツ指導の在り方を周知することができた。

#### ●今後に向けて

アンケート調査結果からも生徒の休日の活動における過ごし方が多様であることや休日の活動参加への考えがまだ不確定である事から、生徒及び保護者の意向を把握し、指導者確保を図りながら、地域移行が可能な種目の地域クラブ活動に向けた体制づくりを行っていきたい。

今後とも、生徒が将来にわたり、スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、環境の一体的な整備を推進する必要がある。

## アンケート結果・参加者の声

### ●部活動地域移行に関するアンケート調査結果

令和6年度  
部活動地域移行に関するアンケート調査結果  
中学校1・2年生 生徒・保護者  
令和6年6月  
亘理町教育委員会

出典:亘理町中学生地域クラブ活動推進協議会

**中学生**

1 対象:亘理町立中学生 1・2年生 生徒  
・回答率 69%

2 放課後の部活動等の所属について当てはまるものを選んでください。

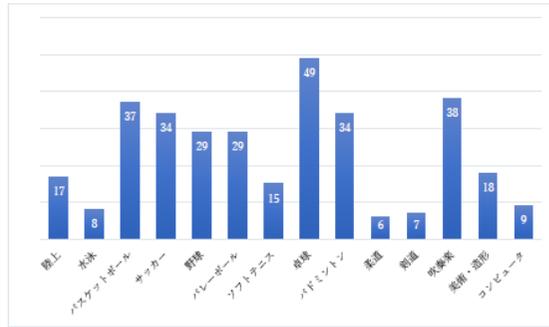
部活動には所属せず、スポーツ少年団やクラブチーム・文化芸術団体、保護者が立ち上げた練習会など、外部の団体に所属し活動している 18%

部活動のみ所属している 71%

部活動とスポーツ少年団やクラブチーム・文化芸術団体、保護者が立ち上げた団体などの両方に所属し活動している 4%

どちらにも所属していない 7%

○ 所属している部活動名を選んでください。

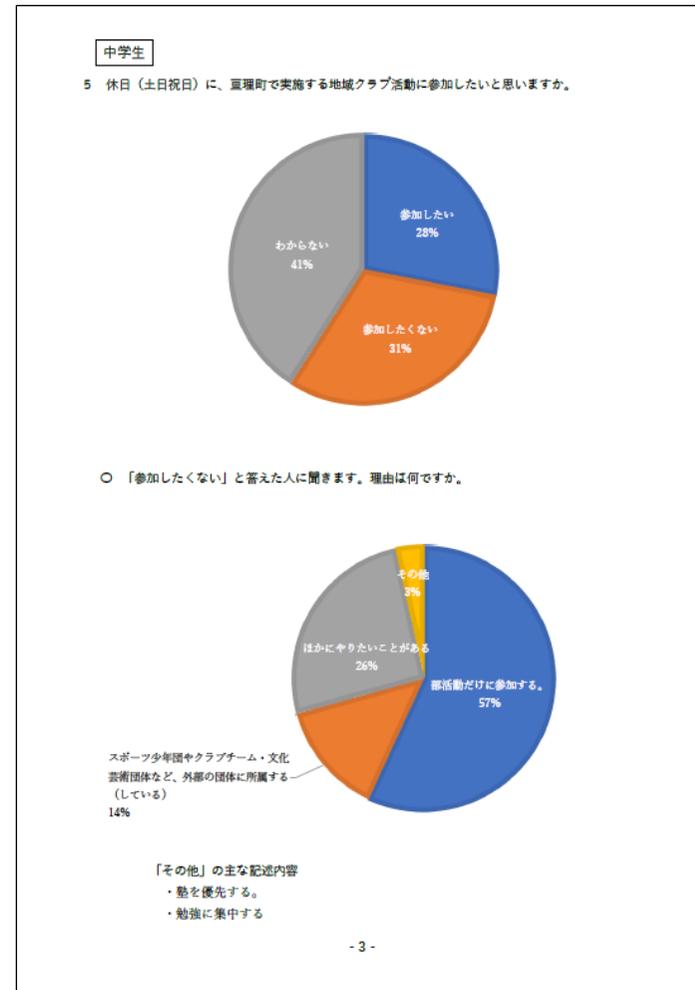
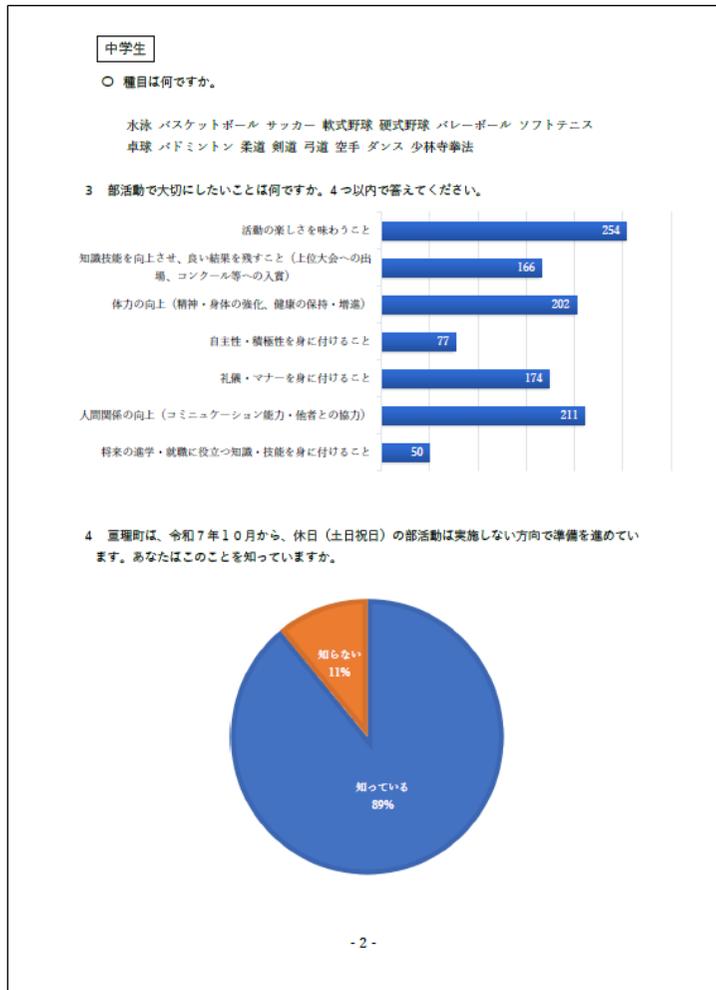


部活動名	人数
剣道	17
水泳	8
バスケットボール	37
サッカー	34
野球	29
バレーボール	29
ソフトテニス	15
卓球	49
バドミントン	34
柔道	6
剣道	7
吹奏楽	38
美術・造形	18
コンピュータ	9

- 1 -

## アンケート結果・参加者の声

### ●部活動地域移行に関するアンケート調査結果

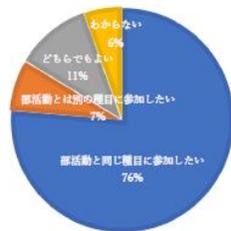


## アンケート結果・参加者の声

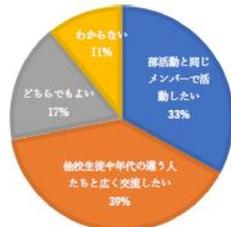
### ●部活動地域移行に関するアンケート調査結果

中学生

6 部活動と地域クラブ活動両方に参加したいと考えている人に聞きます。  
(1) 種目の選択はどのようにしたいですか



(2) どのような人たちと活動したいですか。



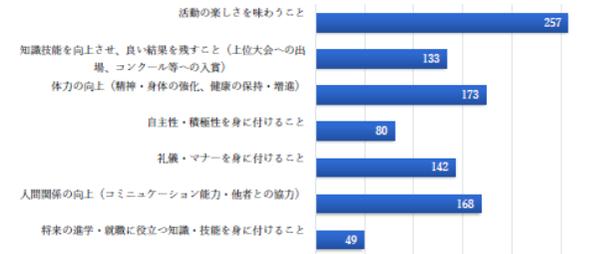
7 互理町で実施する地域クラブ活動に参加するとしたら、どのような種目があればよいと思いますか。やってみたいと思うもの（スポーツ・文化芸術活動の種目）書いてください。

サッカー (14) バレーボール (14) 卓球 (13) 野球 (12) 水泳 (10) バスケットボール (9)  
バドミントン (8) 美術 (8:美術 6 造形 2) 陸上 (6) 吹奏楽 (6) 柔道 (5) ダンス (4)  
剣道 (3) 華道 (3) テニス (2) 茶道 (2) ソフトボール (2) 弓道 (2)  
その他記述のあったもの  
体操 (1) 新体操 (1) 硬式野球 (1) 相撲 (1) 空手 (1) テコンドー (1) 合気道 (1)  
演劇 (1) バレエ (1) 自転車競技 (1) eスポーツ (1) フットサル (1) 乗馬 (1) チアダンス (1)

- 4 -

中学生

8 地域クラブ活動に期待することは何ですか。4つ以内で答えてください。



- 5 -

## アンケート結果・参加者の声

### ●部活動地域移行に関するアンケート調査結果

**中学生保護者**

1 対象：重理町立中学生 1・2年生 保護者

・回答率 37%

2 放課後の部活動等の所属について当てはまるものを選んでください。

部活動には所属せず、スポーツ少年団やクラブチーム・文化芸術団体、保護者が立ち上げた練習会など、外部の団体に所属し活動している 7%

部活動のみ所属している 66%

部活動とスポーツ少年団やクラブチーム・文化芸術団体、保護者が立ち上げた団体などの両方に所属し活動している 18%

○ 種目は何ですか。書いてください。  
バスケットボール、サッカー、軟式野球、硬式野球、バレーボール、ソフトテニス、卓球、バドミントン、柔道、剣道、弓道、空手、スポーツチャンバラ

3 部活動で身に付けさせたいことは何ですか。4つ以内で答えてください。

活動の楽しさを味わうこと	140
知識技能を向上させ、良い結果を残すこと（上位大会への出場、コンクール等への入賞）	36
体力の向上（精神・身体の強化、健康の保持・増進）	126
自主性・積極性を身に付けること	89
礼儀・マナーを身に付けること	122
人間関係の向上（コミュニケーション能力・他者との協力）	154
将来の進学・就職に役立つ知識・技能を身に付けること	17
その他	2

「その他」の主な記述内容  
・教育の目的である人格の完成

- 6 -

**中学生保護者**

4 町ホームページに掲載している「重理町中学校部活動地域移行に係る基本方針」をご覧になりましたか。

見た 67%

見ていない 32%

未回答 1%

5 休日（土日祝日）に、重理町で実施する地域クラブ活動に参加させたいと思いますか。

子どもに任せたい 71%

参加させたい 12%

参加させたくない 7%

わからない 10%

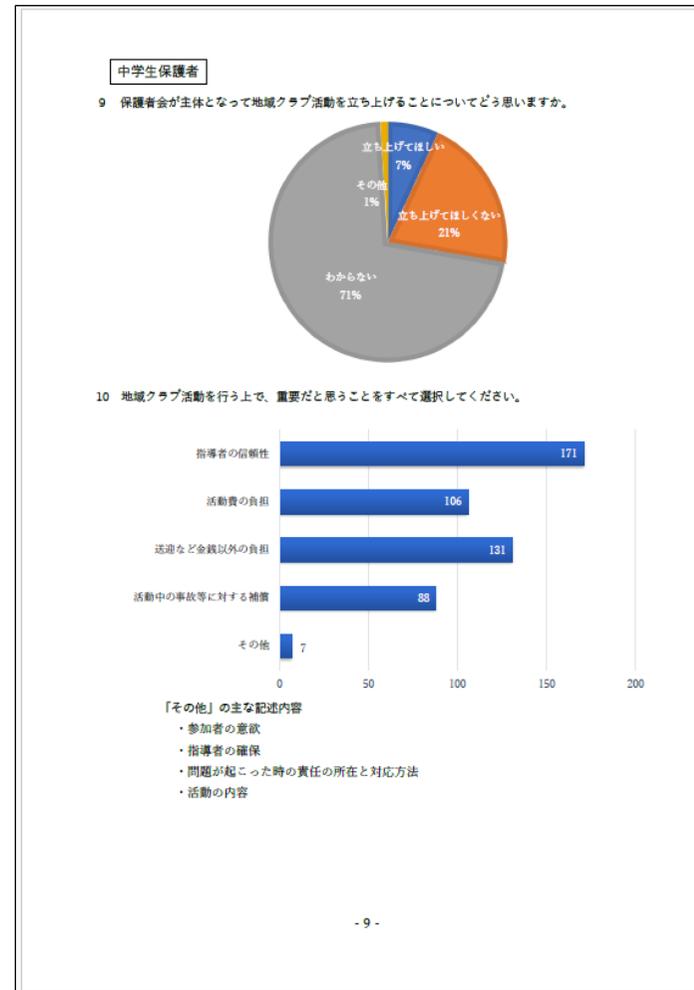
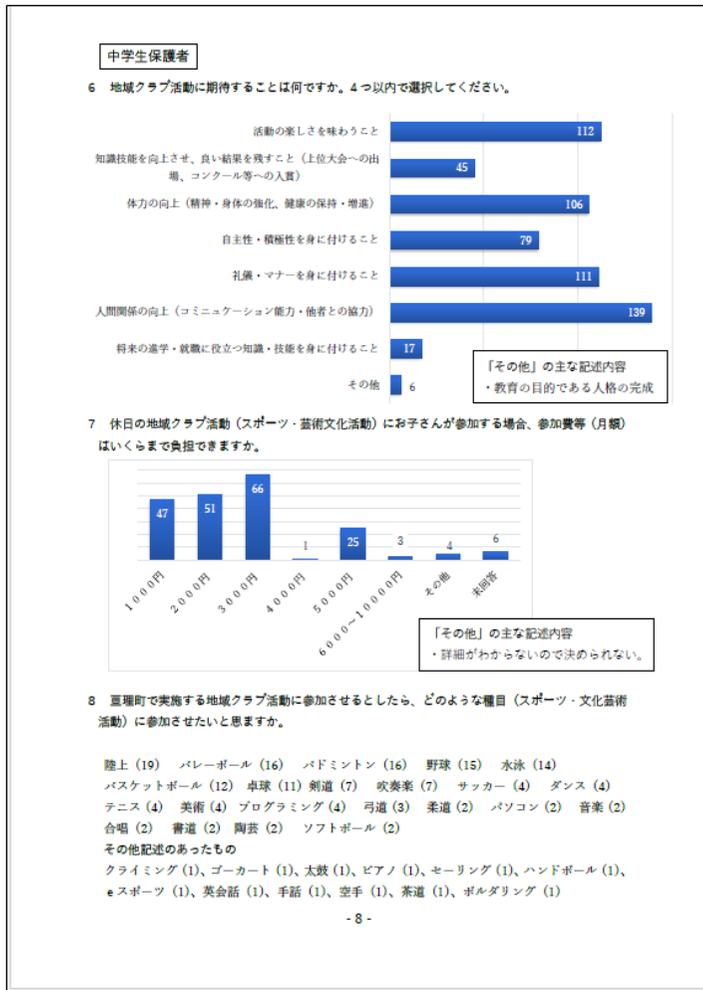
○ 「参加させたくない」と答えた方に伺います。理由をお書きください。

- ・休日は家族と一緒に時間を共有して欲しい。
- ・休ませたい。自由な時間として使ってほしい。
- ・塾や、クラブチームでの活動がある。
- ・金銭面の負担、送迎等が大変
- ・地域クラブ活動の環境整備がなされていない。

- 7 -

## アンケート結果・参加者の声

### ●部活動地域移行に関するアンケート調査結果



## 広報資料

### 【生徒・保護者等への啓発チラシ】

亶理町の小・中学生、保護者の皆さまへ

**中学校部活動の地域移行について**

**令和7年10月から**

**休日の中学校部活動が地域の活動へ**

**移行されます**

※**中学校部活動**とは、現在中学校で行われている部活動のことです。  
 ※**学校部活動**とは、移行後に、平日のみ（ハイシーズンを除く）中学校で行われる部活動のことです。  
 ※**地域クラブ活動**とは、中学校部活動の受け皿となり、地域で行われる休日のスポーツ・文化芸術活動のことです。

休日の中学校部活動の地域移行が始まります  
 中学校部活動の地域移行とは、中学校部活動を、学校の活動から地域の活動（地域クラブ活動）に移行していくことです。中学校部活動で行われてきたスポーツ・文化芸術活動を、地域全体で支えていくという取組です。  
 令和6年度から、休日の中学校部活動を、少しずつ地域クラブ活動に移してまいります。令和7年10月からは、休日の中学校部活動は行わず、地域クラブ活動を優先して行えるようになります。  
 令和6年度は、中学校部活動で行っていた数種目を、地域クラブ活動として実施（実証事業）します。今後、種目数を増やし、自分に合った活動を選び、参加できるようにしていく予定です。

**なぜ、中学校部活動を地域へ移行するのですか？**

少子化等の影響により、全国的に中学校部活動はこれまでどおりの活動が困難となってきており、その状況は今後さらに進んでいくものと想定されています。そのような中で、今後も、子どもたちが多様なスポーツや文化芸術に親むることができる環境を確保していくことが重要となっています。また、働き方改革による教員の多忙解消についても課題となっています。  
 そのため、亶理町では、令和6年度から休日の中学校部活動を、実施可能な種目から段階的に地域での活動に移行し、令和7年10月からは、学校単位での中学校部活動は原則平日のみとし、休日は、中学校部活動を行わず、地域でスポーツ・文化芸術活動ができるようにしていくことを目指していきます。

**【亶理町における中学校部活動地域移行後のイメージ】**

月～金	土・日・祝日
学校部活動	新たな地域クラブ活動
	スポーツ少年団
	町体育協会・町芸術文化協会加盟団体
	保護者が立ち上げた団体
	民間のスポーツ・文化芸術活動 (クラブチーム、道場、教室、サークル等)
	プライベートの生活

地域クラブ活動

出典:亶理町中学生地域クラブ活動推進協議会

【新たな地域クラブ活動】  
 種目（スポーツ・文化芸術）ごとに参加を希望する生徒が集まって活動します。  
**【スポーツ少年団】**  
 現在あるスポーツ少年団に中学生が入団して活動します。  
**【町体育協会・町芸術文化協会加盟団体】**  
 現在ある町体育協会・町芸術文化協会の指導の下、活動します。  
**【保護者が立ち上げた団体】**  
 部活動の保護者会が立ち上げた団体に所属して活動します。  
**【民間事業者】**  
 クラブチームや道場、教室、サークル等で練習したり、週末だけクラブチームや道場、教室、サークル等で練習したりします。  
**【プライベートの生活】**  
 地域の活動等には参加せず、家族で外出したり、家で休養や勉強をしたり、ボランティアに参加したり、学習塾（スクール）に通ったりします。

**【亶理町の新たな地域クラブ活動（スポーツ活動）の休日参加のイメージ】**

	4月中旬	6月	8月下旬	10月	3月
地域クラブ活動	調整期間	地域クラブ活動実施期間	地域クラブ活動調整期間	地域クラブ活動実施期間	
学校部活動	学校部活動ハイシーズン （ハイシーズンの期間）	学校部活動調整期間	学校部活動ハイシーズン （ハイシーズンの期間）	学校部活動調整期間	

※ハイシーズンは、体連関係大会、各種コンクールの前に活動日を増やすことができる1か月程度の期間です。  
 ※平日はこれまでどおり、学校ごとに部活動を行います。  
 ※地域クラブ活動は、種目ごとに、実施期間や実施回数、調整期間を設定します。

◆◆ **実証事業を始めます。** 令和6年8月～令和7年9月末 ◆◆

**令和6年度の実証事業では、どんな取組をするのですか？**

- ・令和6年度内に、モデル的に数種目の地域クラブ活動を行います。
- ・亶理町教育委員会が指導者を派遣するなど取組を行います。
- ・休日の中学校部活動を調整し、地域クラブ活動を優先して行う期間を設けます。
- ・実証事業に係る指導者派遣料、保険料等は、町が負担します。

※上記の内容については、今後変更となることもあります。詳細は、随時、町のHP等でお知らせしていきます。右の二次元コードより亶理町の「中学校部活動地域移行に向けた取組」をご覧ください。

＜お問い合わせ先＞ 亶理町教育委員会生涯学習課

亶理郡亶理町字悠里1番地

電話 0223-34-0511

## 2.実証内容と成果④

### 参考資料（活動写真）



【ソフトテニス教室】



【卓球教室】



【野球部指導者派遣】



【バレーボール保護者見守り】

### 地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



#### ステークホルダー

学校、生徒・保護者、スポーツ協会、スポーツ少年団  
町教委、部活動地域移行コーディネーター

#### 経過

令和4年度より検討会を設置し、国のガイドラインを踏まえて、学校と教育委員会の検討を開始した。

令和5年度に協議会を設置し、学校・PTA・地域スポーツ団体等で地域移行について協議し、休日の中学校部活動の地域移行に関する教育員会の基本方針を策定した。

令和6年度は、部活動地域移行コーディネーターを配置し、実証事業における地域クラブの活動を開始した。

#### 実施内容

●10月以降、ソフトテニス、卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、野球の7クラブで実証事業による地域クラブ活動の取組を開始した。

#### 実施にあたって生じた課題

休日の地域クラブ活動において、指導者の確保が課題である。

ニーズはあるが指導者がいないために実施できない種目がある。

実施中の種目でも個別対応を充実させるためには、指導スタッフの増員等、指導体制の整備が必要である。

#### 今後の展開

令和7年10月以降は、休日の中学校部活動を実施しないことから、生徒の意向やニーズを確認しながら、休日の地域クラブ活動の体制整備が急務となる。

# 3. 今後の方向性

## 地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

関係者	地域移行への取組み	R5年度	R6年度	R7年度 (9月まで)	R7年度 (10月以降)
中学校	○平日の学校部活動	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
	○休日の学校部活動	→ → →	→ → →	→ → →	
	○実証事業への協力	→ → →	→ → →	→ → →	
	○保護者間の話し合いへの協力	→ → →	→ → →	→ → →	
	○関係者との協議への協力	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
生徒及びその保護者	○生徒及びその保護者の話し合い	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
	○保護者間の話し合い	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
	○関係者との協議	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
	○実証事業への協力	→ → →	→ → →	→ → →	
	○ <b>地域クラブ活動</b>				⇒ ⇒ ⇒
巨理町教育委員会等	○生徒及びその保護者への説明会	→ → →	→ → →	→ → →	
	○地域クラブ活動への意向調査	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
	○実証事業	→ → →	→ → →	→ → →	
	○保護者間の話し合いへの協力	→ → →	→ → →	→ → →	
	○関係者との協議	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
	○指導者の確保	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒
	○指導者の研修	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒